

多自然川づくり取り組み事例

タイトル : ネコギギ繁殖場の物理条件及び繁殖場整備手法の検討		
水系 / 河川名 : 豊川水系 / 豊川	河川分類 : 大河川	
河川の流域面積 : 724km ²	整備計画流量 : -m ³ /s (W=1/-)	セグメント : M
事業 : 環境整備	事業開始年度 : 昭和53年度	
目標設定 : 定性的	段階 : P(計画時)	
課題・目的(主な) : 貴重種、特定動植物の保全		
工法(主な) : その他		
配慮事項(主な) :		

背景・課題、目標設定

〈背景〉

ダムの建設・供用に伴って天然記念物ネコギギの生息環境が影響を受けるため、環境影響評価では保全措置が必要であると予測評価されている。ネコギギを対象とする環境保全措置(移殖や生息環境の整備)を行うための知見は少ないことから、保全にかかる技術開発を行うことが必要。

〈課題〉

生息環境整備の野外実験では、ネコギギの生息・定着を確認したが、環境整備を行った場所での繁殖や世代を繰り返しての確認ができていない。

〈目標〉

ネコギギの繁殖場を整備し、繁殖に関連する行動や繁殖仔稚魚を確認する。
併せて、移植(候補)地としてのネコギギの生息環境の整備・評価が可能であることを確認する。得られた知見をもとに、保全対象となる個体群について、生息適地を選定し、必要に応じ環境整備した上で移植し、その後の維持存続を確認する。

取り組み内容・対策例

- ・H26年度から屋外試験池で自然の河川環境に近い形での飼育・繁殖を試みており、3ヶ年にわたり繁殖に成功している。
- ・屋外試験池には繁殖場や稚魚の隠れ場としての利用を想定した石組みを複数設置し、繁殖を試みた。繁殖に成功した試験池において、繁殖場とした石組みの物理条件を取得した。その物理条件と河川でネコギギが繁殖に利用していた自然間隙の物理条件とを比較し、ネコギギ繁殖場の物理条件をもとめた。
- ・得られた物理条件を元に、ネコギギの繁殖場となる間隙を形成するための「繁殖場ユニット」を作成した。この繁殖場ユニットを、ネコギギの生息・繁殖環境の改善を目的として河川の実験淵に設置し、ネコギギの利用状況の調査を行った。
- ・繁殖場ユニットは人力での設置を想定し、可搬性があり、且つ出水時に流失しないよう、連結・固定できる構造とした。
- ・設置にあたっては、河川における繁殖場条件をもとに、水あたりの激しくない入り江や、蛇行部水裏の下流側のような、流速が抑制されるとともに生息・繁殖に必要な間隙が維持できる箇所を選定した。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

- ・繁殖場ユニットの隠れ場としての利用は見られたが、繁殖や関連する行動は確認できていない。
- ・今後は、繁殖場ユニット利用状況の分析を行い、繁殖間隙の創出と合わせて、淵内の繁殖好適場所を屋外試験池から検証し、河川自然淵での設置場所の検討を進める。



繁殖が行われた石組み(右)と繁殖場ユニット(上)



備考